

2026年度 長岡大学シラバス

| | | | | | | | | |
|----------------------------|---|------|-------------|------|------|------|---------------------|------------------------|
| 授業科目名 | 情報処理の基礎 2 (Foundation of Information Processing 2) | | | | | 担当教員 | 深谷 慎介 (フカヤ シンスケ) | |
| 2020-23 年度 入学者(20K-23K) | 科目コード | 科目区分 | 必修・ 選択区分 | 単位数 | 配当年次 | 開講期 | 科目 特性 | 知識定着・確認型 AL/資格対 応科目 |
| | 2037-5-33-142 | 専門科目 | 選択 | 2 単位 | 3 年次 | 前期 | | |
| 2024-26 年度 入学者(24K-26K) | 科目コード | 科目区分 | 必修・ 選択区分 | 単位数 | 配当年次 | 開講期 | 科目 特性 | 知識定着・確認型 AL/資格対 応科目 |
| | 2437-5-33-081 | 専門科目 | 選択 | 2 単位 | 3 年次 | 前期 | | |

| | | | | | |
|--|---|-------------------------------|-------------------------------|---|--|
| ① 授業のねらい・概要 | | | | | |
| <p>私たちが生きる情報社会において、情報通信技術 (ICT) は常に身の回りにあるものである。(もしかすると、あなたはこのシラバスをスマートフォンやPCで閲覧しているかもしれない。それも ICT の活用といえるだろう。) 私たちは職業生活・私生活を問わず、ICT を活用する必要性に迫られている。本授業では、情報処理技術者試験の一区分である「IT パスポート試験」が、職業人一般に対して求めている、情報技術に関する共通的な基礎知識の中の、ストラテジ系「システム戦略」、マネジメント系「開発技術」、「プロジェクトマネジメント」、「サービスマネジメント」分野の用語を 理解し、仕事や生活の中で活用できるようになることを目標とする。</p> | | | | | |
| ② ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | |
| 職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力 | | | | | |
| ③ 授業の進め方・指示事項 | | | | | |
| 本授業は主に講義形式で実施する。毎回の授業時にテキストを持参すること。必要に応じて、テキストを補完する資料を配付する。 | | | | | |
| ④ 関連科目・履修しておくべき科目 | | | | | |
| IT パスポート試験対応科目 (「情報処理の基礎 2」、「情報システムの基礎 1、2」、「コンピュータネットワーク 1、2」) を履修することが望ましい。 | | | | | |
| ⑤ テキスト (教科書) ※授業で使用する。 | | | | | |
| 富士通ラーニングメディア (著)「よくわかるマスター 令和 8-9 年度版 IT パスポート試験 対策テキスト&過去問題集」FOM 出版 | | | | | |
| ⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。 | | | | | |
| 情報通信白書 令和 7 年版、8 年版 (総務省のウェブサイトから無償でダウンロード可能、令和 7 年版は公開済、令和 8 年版は 2026 年夏頃公開予定) | | | | | |
| ⑦ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等) | | | | | |
| 皆さんの学びをサポートする形で授業を進めたいと考えています。共に学びを楽しみましょう! | | | | | |
| ⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安 | | | | | |
| IT パスポート試験の出題範囲「システム戦略」、「開発技術」、「プロジェクトマネジメント」、「サービスマネジメント」に関して、次の達成レベルを目指す。 | | | | | |
| (1) 用語に関するいくつかの説明文から適切な説明文を選択できる。 | | | | | |
| (2) 用語に関する説明の不足を補うことで、適切な説明文を作成することができる。 | | | | | |
| (3) 計算問題を正しく解答できる。 | | | | | |
| ⑨ ルーブリック | | | | | |
| 評価基準 | S | A | B | C | D |
| 評価項目 | 到達目標を越えたレベルを達成している | 到達目標を達成している | 到達目標達成にはやや努力を要する | 到達目標達成には努力を要する | 到達目標達成には相当の努力を要する |
| (1) 説明文の選択 | 資料等を参照しなくても、適切な説明文を選択でき、授業内容を越えた学修成果を示している。 | 資料等を参照しなくても、適切な説明文を選択できる。 | 資料等を参照することで、適切な説明文を選択できる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けることで、適切な説明文を選択できる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けなくても、適切な説明文を選択できない。 |
| (2) 説明文の作成 | 資料等を参照しなくても、適切な説明文を作成でき、授業内容を越えた学修成果を示している。 | 資料等を参照しなくても、適切な説明文を作成できる。 | 資料等を参照することで、適切な説明文を作成できる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けることで、適切な説明文を作成できる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けなくても、適切な説明文を作成できない。 |
| (3) 計算問題 | 資料等を参照しなくても、計算問題を正しく解くことができ、授業内容を越えた学修成果を示している。 | 資料等を参照しなくても、計算問題を正しく解くことができる。 | 資料等を参照することで、計算問題を正しく解くことができる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けることで、計算問題を正しく解くことができる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けなくても、計算問題を正しく解くことができない。 |

| ⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法 | | | | | | | |
|------------------------------------|---|-------------------------------|-----|-----------|-----------------|-----|------|
| 学習到達目標（評価項目） | 定期試験 (レポート含む) | 小テスト | 課題 | 発表・ 実技 | 授業への 取組姿勢・意欲 | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 60% | | 25% | | 15% | | 100% |
| (1) 説明文の選択 | 25% | | 10% | | 5% | | 40% |
| (2) 説明文の作成 | 30% | | 10% | | 5% | | 45% |
| (3) 計算問題 | 5% | | 5% | | 5% | | 15% |
| 評価項目「その他」詳細 | | | | | | | |
| フィードバックの方法 | 提示した課題については、適宜解説の時間を設ける。 | | | | | | |
| ⑪ 授業計画と学習課題 | | | | | | | |
| 回数 | 授業の内容 | 授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物） | | | | | |
| 1 | イントロダクション（生成 AI、デジタルトランスフォーメーション） | 講義関連情報の収集・分析 120分 | | | | | |
| 2 | 情報システム戦略（経営戦略、経営品質、ビジネスモデル） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 3 | 業務プロセス1（モデル化、業務フロー、テレワーク） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 4 | 業務プロセス2（業務改善・効率化、プロセス変革） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 5 | ソリューションビジネス（付加価値、RPA、XaaS） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 6 | システム活用促進・評価（リテラシー、デジタルデバイド） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 7 | システム化計画（業務内容分析、システム化計画作成） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 8 | 要件定義（機能要件・非機能要件） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 9 | 調達計画・実施（契約、請負・委任・派遣契約、QCD 管理） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 10 | システム開発技術1（V 字モデル、見積、設計） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 11 | システム開発技術2（製造、テスト、保守・運用） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 12 | 開発プロセス・手法（ウォーターフォール・スパイラル・プロトタイプ） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 13 | プロジェクトマネジメント（QCD 管理、リスクマネジメント、PMBOK/CMMI） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 14 | サービスマネジメント（ITIL、SLA、ファシリティマネジメント） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| 15 | システム監査（会計・業務・情報セキュリティ監査、内部統制） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 180分 | | | | | |
| ⑫ アクティブラーニングについて | | | | | | | |
| 知識定着・確認型 AL | | | | | | | |

※以下は該当者のみ記載する。

| ⑬ 実務経験のある教員による授業科目 | |
|--------------------|--|
| 実務経験の概要 | |
| | |
| 実務経験と授業科目との関連性 | |
| | |